

より良く生きる ― 出居清太郎先生の世界 ― 第12回

山本博也

(1) 世の中、不公平はない

正直者がバカをみるとか、正直で真面目な人がなぜこんなに苦勞をするのかなどと、よく聞くのであるが、これは徳の分量ということ知らぬがための不平不満で、ついには社会をうらみ、親兄弟をにくむような心にもなりがちである。

人から見ても傲慢無礼(ごうまんぶれい)で、常識はずれで、不道德な行いをしながら、物も豊かに、健康にも恵まれて生活している人も数多くある。

世の中は矛盾した不公平なものとも考えられるが、徳の分量ということが各人に悟られるならば、何一つ憤慨することもないのである。過去に徳を積み、徳を流したことにより、現在の徳の分量があるのだと悟られるならば、なんら矛盾も不公平もないことが分かるのである。人の肉体にしても、身長、体重も違い、顔かたち、みなそれぞれに違うのである。人を見、物を見て、心が迷い、不平不満、悲哀を感じるようでは、人生生活をしていてもなんら生きがいはないわけである。

(出居清太郎先生の言葉から)

「正直で真面目な人なのに苦勞が多い」

「傲慢で不道德な行いをする人が豊かに、病気もせず暮らしている」というようなことを見聞きして、世の中おかしいと思うことがあります。

それは、良い行いをすれば幸せになり、悪い行いをすれば不幸になるという基準に照らして、理不尽だということでしょう。では、その基準が間違っているのでしょうか。そんなことはないと思います。その基準は正しい。ではなぜ？

それは、その基準を適用するに当たっては、より広い眼をもたなければならぬということです。だろろうと思えます。

「Aさんは良い行いをしているのに…」
「Bさんは悪い行いをしているのに…」
と思うとき、私が見ているのは、私に見えている範囲のAさん、Bさんの姿にす

ぎません。しかしAさん、Bさんには私には見えてない部分が多くあるということです。それはいわゆる裏の顔という意味ではなく、次元の違いということ。お金や不動産の集積は遺産として、子や孫に引き継がれます。そこには借金という負の遺産もあります。

同じように行いの集積も、プラスもしくははマイナスの遺産として子孫に引き継がれるということです。この行いの集積としての遺産が(1)の文章では「徳の分量」という言葉で表現されています。そしておそらく「徳の分量」に関しては、当人の行いの集積や父祖からの引継ぎだけでなく、魂の過去世からの引継ぎが多くあるでしょう。

ただこうした「徳の分量」については



カト 大西 恵

聖者の悟りに属する事柄で、私たちには見えない、不可知の世界です。つまり、人間にとっての不可知の世界にまで眼を広げてみれば、「良い行いをすれば幸せになり、悪い行いをすれば不幸になる」という基準について不公平なものはないということですが。

満、懐疑と憤慨の中でさびしく過ごすことになります。

人間にとって可知的な世界だけでなく不可知的な世界も—実際の様相はわからないけれども—あるかも知れないと思えるなら、心穏やかになれるでしょう。

人間にとつて可知的な世界だけに目を向け、現実の社会を、不公平な

さらに行いの集積としての「徳の分量」ということを—具体的にはわからないけれども—なるほどと思えるなら、不公平・理不尽と見える現実にも素直に対応でき、現在の自分の行いに希望を持てるのではないでしようか。

(2) ここに金遣いの荒い人がある

理不尽な社会とみるだけであつたなら、不平不

ここに金遣いの荒い人がある。すると人間相互にあつては常識的な、感情的な判断に基づいて、この人が誤っている、

この人は悪いんだと決めてしまう。こうして根本的な誤りを犯すことになる。人の世の法律は現実の行いによつてその善悪を判断して裁いていく。神の法にあつては、現実だけを判定の尺度にしない。過去の種、その人の魂をめぐる縁など、まことに複雑な要因が判定の尺度になる。この大切な根本を棚上げしておいて、簡単に人間感情で決めてしまうから間違いを生むことになる。

(出居清太郎先生の言葉から)

金遣いが荒いことが良くないことは当然です。そういう人を困った人だ、しょうがない人だと批判するのは普通です。ただ、そういつてその人を断罪するだけで終わるのは狭い心であつて、もう少

しひろい心のありようがあるということだろうと思います。

その人がそのようなことをするに ついては、「過去の種、その人の魂をめぐる縁など、まことに複雑な要因」があるという ことです。それは不可知の世界です。

しかし、自分にはわからないけれども、そういう世界があるかも知れないと思 うことは、人間としての謙虚さであり、 そう思えることはしあわせなことではない でしょうか。

「見える」世界だけで生きるのは、欄干のない狭い橋を渡るようなもので不安です。その時橋の外側に「見えない」橋がついていると思えば安心して歩けます。

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1
 修養団捧誠会 <https://www.hoseikai.or.jp>